

第6学年 国語科学習指導案

1. 単元名「共に考えるために伝えよう～わたしの未来予想図を伝えよう～」

2. 指導観

○ こんな子どもだから

本学年の子どもたちはそれぞれの場面において、最上級生として様々な活動に取り組んでいる。そんな中で話し合いの必要感をもち、物事を多面的にとらえ段取りよく運ぶ態度も培われてきている。

これまでに、子どもたちは各教科で聞き手の方を向いて語尾まではっきりとすることができるよう発表の基本的な姿勢を学んできている。1学期に学習した「学級討論会をしよう」では、自分たちの生活と密着した話題について、話し合う必然性を感じながら積極的に自分の考えを述べていた。また、運動会の競争遊技に関する話し合いでは、それぞれの意見が十分につながっている状態とまではいっていないが、活発に意見を述べることであった。

しかし場合によっては、意見が出てもそれに対する反論や質問をすることがほとんど見受けられず、話し合い活動に深まりが感じられないことがある。その原因として、相手に分かりやすい話し方を理解できておらず、自分が伝えたいことを明確に伝えることができないことが挙げられる。そのため自信が持てず話し合いに参加しようとする態度があまり見られない。

そこで、自分が伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためのポイントをはっきりと把握させた上で、自分の考えを述べる場を設定すれば、子どもたちが自信を持って話し合いに参加する態度を養うことができると考える。

○ このような学習で

これまでに子どもたちは、総合的な学習の時間に、自分の将来の夢や興味を抱く職業にたどりつくまでの道筋を調べ、それをもとに中学生とポスターセッションをすることを決めている。

そこで本単元は、中学生とのポスターセッションにおいて、自分が調べたことや考えたことをより分かりやすく効果的に伝えられるためのポイントを理解し、自分の発表に生かすことができるようになることをねらいとしている。

そのために、ポスターセッションのポイントとなる以下の3点をはっきりと把握し、意識させながら学習を進める。

- ◆資料を指し示しながら話す。
- ◆聞き手の様子確かめながら話す。
 - ・問いかけ方
 - ・間の取り方
 - ・例示の仕方
- ◆言葉遣いに気をつけながら話す。

さらに、これらを意識しながら話し合っ振り返りをする場を設定することで、自分の発表のよさや課題に気付くことができ、ひいては、総合的な学習の時間に行う中学生との未来交流会への意欲を持つことができると考える。

本単元の小中連携教育の視点

この学習は、話す・聞く系統表の「資料や具体物を効果的に使って話す」「例を挙げて話す」「目的や場に応じて、言葉遣いを考えながら話す」「聞き手の様子確かめながら話す」をねらいとしており、中学校1年生の内容につながる上でも意義深いと考える。

○ このような支援で

まずよいモデルビデオとよくないモデルビデオを視聴して、相手に分かりやすい発表にするためのポスターセッションのポイントをはっきりととらえさせる。次に、総合的な学習の時間「未来予想図を描こう」で調べた内容をまとめ、資料や発表原稿を作成するようにする。この際、これまでに学習してきた事を想起しながら、効果的な資料作りができるようにしていく。

資料が完成したら、グループ毎にグループ内で発表を見せ合い、自分の発表について振り返りをする。

代表児の発表の仕方を見てポスターセッションのポイントを確認したあと、自分が発表を行ったり友だちの発表を聞いたりすることで、自分の発表のよさや課題をはっきりとつかみ、自分の発表に取り入れられるようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは自分の発表に自信を持つことができ、中学生とのポスターセッションへの意欲を高めることができると思う。

3. 目標

- 総合的な学習の時間「未来予想図を描こう」で調べてきたことを、中学生に分かりやすく伝えるように工夫して発表しようとするができる。
- ポスターセッションのポイントを考えながら効果的に話すことができる。

4. 学習計画（5時間）

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点（※他教科との関連）
<p>1. 学習の見通しを立てる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の準備をする。 ○ 資料をもとに発表原稿を作る。 ○ 発表の練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>未来発表会に向けて調べたことを、工夫して中学生に伝えよう。</p> </div> <p>2. モデルビデオを視聴し、相手に分かりやすく伝えるには、どんな発表をすればよいのか考える。①</p> <p style="text-align: center;">（6の○本時）</p> <p>ポスターセッションのポイント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆資料を使う。 ◆聞き手の様子確かめながら、話す。 <ul style="list-style-type: none"> ・問いかけ方 ・間の取り方 ・例示の仕方 ◆言葉遣いに気をつけながら話す。 </div> <p>3. 発表原稿や資料を作る。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の計画を立て、おおよその内容を考える。 ○ 発表の内容を考えながら、発表原稿を考える。 ○ 分かりやすく伝えるために、資料を作成する。 <p>〈資料の効果的な書き方〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを書く。 ・見出しを付ける。 ・絵などを入れて、視覚的に訴える。 ・説明したいことを簡潔に書く。 </div> <p style="text-align: right;">など</p> <p>4. 互いによさやアドバイスを伝え合い、練習する。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 代表児の発表を見て、振り返りカードに記入する。 ○ 資料や発表原稿を使って練習をする。 <p style="text-align: right;">1 / 2（6の○本時）</p>	<p>※ 総合的な学習の時間「未来予想図を描こう」で、自分の将来の夢や興味を抱く職業にたどりつくまでの道筋を調べ、それをもとに中学生とポスターセッションをすることを決めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習を想起し、資料や発表原稿が必要であることに気づくことができるようにする。 ○ 単元のねらいに迫ることができるように工夫の仕方について確認できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・発信の方法、手段を考える。 ○ モデルビデオを視聴することで、発表の具体的なイメージを持つことができるようにする。 ○ よくないモデルとよいモデルを準備し、分かりやすい発表にするための「ポスターセッションのポイント」をはっきりととらえられるようにする。 ○ 前学年での学習を想起し、聞き手に分かりやすく発表するために話の組み立てを工夫したり、聞き手に問いかけるような表現や話し方を工夫できるようにする。 ○ どのような形式でまとめたら聞き手に分かりやすいかを考えることができるようにする。 ○ これまでの学習を想起して、効果的な資料の必要条件をとらえられるようにする。 ○ それぞれの観点について、振り返りカードに記入できるようにする。 ○ 自分の課題にあった練習ができるように声かけをしていく。 <p>※ できあがった資料を使って、中学生との未来交流会を行う。</p>

本時学習指導案（2 / 5）

公開授業 I

1. 本時の目標

- 自分が調べたことについて、工夫して伝えようとする意欲を持つことができる。
- モデルビデオの視聴を通して、自分の伝えたいことを分かりやすく伝えるための「ポスターセッションのポイント」を理解することができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

— 本時の仮説 —

子どもが、ポスターセッションにおいてどう話したらよいか明確に理解できるようにモデルビデオを提示すれば、自分で調べたことを工夫して伝えようとする意欲を持つことができるであろう。

前時までに単元のねらいに迫ることができるように学習の見通しを立てている。そのためこれまでの学習を想起させ、資料や発表原稿が必要であることに気づくことができるように学習支援として発信の方法・手段を考えさせた。

本時は、相手に分かりやすく伝えるためにはどんな発表をすればよいかを考える時間である。そこで、本時の支援にあたっては、まず、ポスターセッションのポイントに気づくようにするために、よいモデルとよくないモデルのビデオを視聴する。次に、そのポイントを生かすことができるようになるために、モデルとは違う練習用原稿と資料を使って、練習させる。

こうすることで、子どもたちはポスターセッションでの発表の仕方を理解し、ポスターセッションへの意欲を高めることができると思う。

— 本時の小中連携の視点 —

本時は、話す・聞く系統表の「資料や具体物を効果的に使って話す」「例を挙げて話す」「目的や場に応じて、言葉遣いを考えながら話す」「聞き手の様子を確認しながら話す」を身に付けることを主なねらいとしており、これは中学校1年生の「話し言葉を意識した言葉で話す」「場面に応じた正しい言葉遣いや敬語を使って話す」「聞き手の反応に注意しながら話す」力に発展していくための基礎となる力である。

3. 準備

- (教師) モデルビデオ, モデルビデオ原稿の拡大図,
- (子ども) モデルビデオの原稿, 練習用原稿・資料

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
1. 前時学習を想起し、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">相手に分かりやすく伝えるための「ポスターセッションのポイント」を作ろう。</div>	○ 前時学習を想起しやすいように、学習プリントで振り返るようにする。

<p>2. モデルビデオを視聴し、ポスターセッションのポイントについて考える。 (1) モデルのビデオを視聴する。 (2) よいと思う工夫を見つけ、モデル原稿に書き込む。</p> <p>3. 気づいたことをもとに、ポスターセッションのポイントについて話し合い、確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆資料を指し示しながら話す。 ◆聞き手の様子確かめながら話す。 ・問いかけ方 ・間の取り方 ・例示の仕方 ◆言葉遣いに気をつけながら話す。</p> </div> <p>4. ポスターセッションのポイントを意識しながら練習用原稿・資料で練習をする。</p> <p>5. 本時の学習の感想を書き、次時の見通しを持つ。 ・自分が調べたことを伝えるための発表原稿や資料を作ること</p>	<p>○ 比較しやすいように、よいモデルとよくないモデルの2種類を見せる。 ○ モデルビデオだけでは内容を把握できない可能性もあるので、原稿を配布し、文字で確認できるようにする。</p> <p>○ 資料の指し示し方、問いかけ方、間の取り方などを理解できるように話し合いの中でもモデルビデオを流し、よさが現れている場面を確認していくようにする。</p> <p>○ ポスターセッションのポイントを生かした発表ができるようにするために、練習用原稿・資料を準備しておく。 ○ 二人組を作り、互いのよさやアドバイスを伝えるようにする。</p> <p>○ 本時の感想をまとめ、自分の課題を意識できるようにする。</p>
---	---

5. 板書計画

言葉遣いに気をつけながら話す。
・例示の仕方
・間の取り方
・問いかけ方
聞き手の様子確かめながら話す。

まとめ
ポスターセッションのポイント
資料を指し示しながら話す。

わたし未来予想図を伝えよう
めあて
相手に分かりやすく伝えるための「ポスターセッションのポイント」を作ろう。

よいモデルビデオの原稿
(拡大図)

本時学習指導案（4 / 5）

公開授業Ⅱ

1. 本時の目標

- 自分の発表を振り返ることで、よさや課題に気づくことができる。
- ポスターセッションのポイントを、自分の発表に生かそうとすることができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

— 本時の仮説 —

自分の発表のよさや課題を見つけるために、自分の発表を振り返る活動を設定すれば、ポスターセッションにおいて自分の考えをより分かりやすく伝えるために工夫しようとするすることができるであろう。

前時までに、単元のねらいに迫ることができるように発表原稿や資料を作成している。そこで、本時ではまず、代表児による発表を見て、よさやアドバイスの観点をはっきりとつかめるようにする。振り返りカードに書くことで、発表のよさがより明確になると同時に、自分の発表に生かせることを見つけることもできると考える。次にグループで振り返り活動を行う。代表児による振り返り活動が生き、よさやアドバイスを互いに伝え合うことができると考える。この活動を通して、ポスターセッションにおいて自分の考えをより分かりやすく伝えるために工夫しようとするできると考える。

— 本時の小中連携の視点 —

本時は、話す・聞く系統表の「資料や具体物を効果的に使って話す」「例を挙げて話す」「目的や場に応じて、言葉遣いを考えながら話す」「聞き手の様子確かめながら話す」を身に付けることを主なねらいとしており、これは中学校1年生の「話し言葉を意識した言葉で話す」「場面に応じた正しい言葉遣いや敬語を使って話す」「聞き手の反応に注意しながら話す」力に発展していくための基礎となる力である。

3. 準備

- （教師）発表の仕方のポイント（掲示物）
- （代表児）振り返りカード，発表原稿，資料

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
1. 前時学習を想起し、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">互いに発表を振り返り、自分の発表に生かしたいことを考えよう。</div>	○ 前時学習を想起しやすいように、学習プリントで振り返るようにする。
2. 代表児の発表を見て、よさやアドバイスを話し合う。	○ 資料の指し示し方，問いかけ方，間の取り方，例示の仕方などの視点を掲示す

(1) 振り返りカードの書き方を知る

- ポスターセッションのポイントについて振り返りをする

- ◆ 資料を指し示しながら話す。
- ◆ 聞き手の様子確かめながら話す。
 - ・ 問いかけ方
 - ・ 間の取り方
 - ・ 例示の仕方
- ◆ 言葉遣いに気をつけながら話す。

(2) 代表児の発表を聞き、よさやアドバイスを考える。

(3) 代表児の発表のよさやアドバイスを話し合う。

3. グループで発表し合い、よさやアドバイスを伝え合う。

4. 自分の発表に生かしたいことをまとめ、次時の見通しを持つ。

る。

- それぞれの観点について、振り返りカードに記入できるようにする。

- 机間支援を行い、振り返り活動がうまく進まないグループに対応する。振り返り活動が上手に進んでいるグループを紹介し、グループでの話し合い活動の参考にする。

5. 板書計画

わたしの未来予想図を伝えよう
めあて

互いに発表を振り返り、自分の発表に生かしたいことを考えよう。

◇ 友達の発表を見て、工夫の仕方考えよう。

① 資料の指し示し方

② 問いかけ方

③ 間の取り方

④ 例の出し方

まとめ

友達の発表のよいところ

友達の発表で工夫するところ